

現在、協会では、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）畜産草地研究所のご協力をいただき新検量線の作成を行っております。検量線作成のためには、多くのサンプルが必要で、全国の飼料分析センター等へ収集を依頼しております。

現在、イタリアンライグラス乾草とソルガムサイレージのサンプルが不足しております。サンプルを提供していただける分析機関等がございましたら、下記までご連絡いただきたくよろしくお願いいたします。

一般社団法人日本草地畜産種子協会 草地畜産部 岡野和夫

TEL : 03(3251)6501、FAX : 03(3251)6507

E-mail : [okano@souti-fsa.or.jp](mailto:okano@souti-fsa.or.jp)

参考

## フォーレンジテスト新システム構築事業について

家畜の生産能力を最大限発揮するためには、成育ステージ、能力等に応じた栄養量を適切に給与、採食させる飼料設計を行う必要があります、そのための自給飼料の栄養価を分析することをフォーレンジテストと呼んでいます。

フォーレンジテストについては、迅速かつ簡易に分析を行える近赤外分析法（NIRS）を用いた飼料分析が導入され、多量のサンプルを短時間で分析できるようになりましたが、それぞれの栄養成分について検量線を作成する必要があります。

近年、近赤外分析計や近赤外スペクトル解析手法の高性能化により分析精度が大きく向上してきたものの、稲WCS等の新たな飼料作物の導入及びNDFやADF等の新たな分析項目の追加対応等が必要となり、過去に作成された検量線ではその機能を十分発揮できない実情に至っています。

このため、(一社)日本草地畜産種子協会は平成24年度から26年度までの間、新たに汎用性と精度を向上させた検量線を開発し、これらの検量線を飼料分析センターへ移設する「フォーレンジテスト新システム構築事業」を行っています。

## フォーレンジテスト新システム構築事業

### 1. フォーレンジテスト推進委員会等開催事業

### 2. 新検量線開発事業

### 3. フォーレンジテスト再構築事業

